



今日の平市會

一瀉千里原案可決

平小鐵白紙還元の陳情報告

平市會は既報の如く今日八日午前十時から開會二十八名の出席(萩原、大井川兩議員缺席)で保健所設置、參事會員補缺、職員慰勞費、損害賠償の訴訟報告、十二年度豫算追加の諸案につき附議、また一と閣議案と見られた參事會員は決戦投票を行はれず鈴木光吉氏に建設委員は川崎文治氏に決し他の各件も原案可決されたが一般市民から非難されてゐる

血彩護國の精華

石城郡關係の人柱

野村一太×兵、出身は石城郡江名町の永崎で應召前まで漁夫をしてゐた郷里には両親と妻と三子(三子)及び一女を残して戦死
 幾田明×兵、勿來町宇窪田與重氏の長男で滿州事變にも出征した武勳者であるが名譽の戦死をなす實家には妻と三子(三子)との間に二男がある
 國井四郎×兵、鹿島村の下藏持吉氏の四男で同君も滿州事變に出征した勇士だが今回戦死す實家には両親の他に五人の兄弟が残つてゐる

日刊報 日曜日 日曜日 日曜日
 日刊報 日曜日 日曜日 日曜日
 日刊報 日曜日 日曜日 日曜日

常識講座

チビカルは正しく云へば、イビカルだ、イビカルな、代表的な、生粋なと云つた類で其の總ての點に於てチビカルなところを認められるであらうなど云ふのは如上の意味である、

相馬郡小網村長左門方に

の岩間出身子藏(秀)氏の長男で妻つや(三三)さんとの間で本年一才の女児を残して戦死す

川上利平(長)内郷村の

宮出身だが一家を舉げて茨城縣日立町に轉住先から應召戦死した、實家は雜貨商を営み滿州事變の武勳に金鶏勲章を下賜され両親の他に妻つみさんと間に一男一女と弟二人ある

佐藤榮吉(長)川原村の

川原出身で戦死、三年前からトラック運轉をなした妻(三三)さんと間に一男一女がある

菅野重(長)内郷村の

菅野重(長)内郷村の川平現住本籍は茨城縣北

菅野重(長)内郷村の

菅野重(長)内郷村の川平現住本籍は茨城縣北

菅野重(長)内郷村の

菅野重(長)内郷村の川平現住本籍は茨城縣北

選舉有權者の名簿縦覽

今日の縦覽四名
 平市では去る五日から衆議院議員選舉有權者五三八五名市會議員選舉有權者五〇五七名名簿縦覽を來る十九日まで十五日間行つてゐるが今日

横町納稅組合で

皇軍慰問金献納
 石城郡赤井村の高城字横町納稅組合では村稅獎勵金から金五圓十二錢を皇軍慰問として寄附した

郡下小學生の劍道大會

平市舊城跡警備隊青年學校主催の石城郡下小學生の劍道大會は去る六日同校に於て催されたが成績左の如くであつた
 ▲高點試合部第一等平三酒井俊男 二等同吉戸隆祐 三等同諸橋英治 四等同遠藤芳美 五等(平)相川文男(高等部) 一等平一佐藤秀男 二等同菅野重之吉 三等同岩橋力 四等同矢吹武一 五等平一石井司 ▲今晩は北風の風、雨、明日は北西の風、雨、後天気が次第によくなる
 小名濱測候所

總量では減じたが

一般貨物では増加
 平驛十月の貨物取扱高
 江田の勝地は今年是非常時の成績は概報したが同月の取扱量及び貨物取扱高は發達四〇一四噸(昨年同月九九〇)で前年より五九七噸減、到着一七四七噸(昨年一八九一五)で前年より一四三六噸減、收入一四〇七一噸(昨年一六二二三)で前年より二二一六噸減を見たが此の發達貨物の動向を上げれば左記の如く總量に於ける減少は石炭で一般貨物は通じて増加をたどつてゐる

山の子ケ村で

農産品評
 出品千點の見込み
 石城郡入道野、上道野、田人三ヶ村農會聯合農産品評會は來る二十二日から二十五日に至る四日間入道野小學校に於て催されるが今回は第六回の開催で年と共に盛んになつてゐる右三ヶ村の農産品の今年には藪及び木炭を加へて出品一千點に達するもの、如く郡農會から柴田技手審査に出張すると

江田の紅葉

昨日は數百の觀光
 東北に於ける紅葉の名所である磐城東線小川郷、川前間の

撮影會盛會

磐城寫友會主催の昨日の市内松ヶ岡公園に於ける撮影會は思はれた快晴の爲め参加多

防空演習の参加打合

明日平驛にて
 本縣下に於て近々施行される防空演習に参加する平驛では明日午後一時から聯合樓上に左記の各員を會し水戸運轉事務所から佐藤書記外二名來平して打合せをなすと

各種團體聯合の造成資金に

國防婦人會の勞力奉仕
 石城郡四倉町では去る九月十五日町内各團體聯合會をもつて組織された後援會により九百三十圓の資金を得たので内三百五十圓を國防費に献金なし残る全部を町内出征軍人並に遺族慰問費に充てゝゐるが更に二千圓の目標で町内特志家から寄附を募ることになつたが向後同町からの慰問袋は最近までに三回發送まされ防婦人會では六百人の會員で三百圓の資金を造り應召軍人遺族の救護をなしたる外出出征家庭の糧食手傳中であるが引續いて糧食から麥播にも全會員の勞力奉仕をなす筈で今

猫自殺

酒癖の悪い職人
 石城郡江名町の仲の作字榮町川崎留吉方菓子職茨城縣多賀郡平瀧町本町三九生れ伊藤亮(三)は飲酒を好み直ぐ興奮する暴行性の男で附近の人々から厭み嫌はれてゐたが去る二日も常の如く悪酔を賣じ實姉から強く意見されたのを氣にし無斷家出後町内を飲み歩き四日朝同町末廣半馬目は方に登樓飲酒の後猫イラズを嗜下自殺をはかり苦悶し居るを家人に發見警察官の應急手當を受けた効なく絶命した

